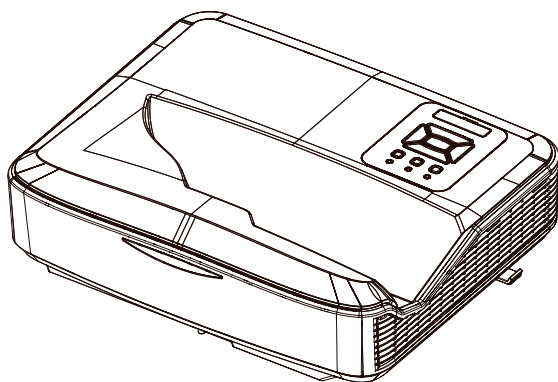


ULTRA WIDE PROJECTOR

# フィード

IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェア  
ユーザーマニュアル



## IRペン&LCTユーティリティソフトウェアの インストール

### ソフトウェア動作環境

ソフトウェアのインストールの前に、コンピュータが以下の条件を満たしていることを確認してください。

システム要件	
オペレーティングシステム	<b>Windows:</b> Windows 11 / Windows 10 / Windows 8.1 / Windows 8 ※ .NET Framework 4.0 のインストールが必要です <b>macOS:</b> macOS 14.5 ~ macOS 11
CPU	Intel CoreTM i3 またはそれ以上
メモリ	2GB またはそれ以上
ハードディスク必要空き容量	150MB 以上



### インストールの準備

株式会社サカワ web サイト（[www.sakawa.net](http://www.sakawa.net)）から、IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェアのインストーラーをダウンロードし、以下の手順に従ってインストールを行います。

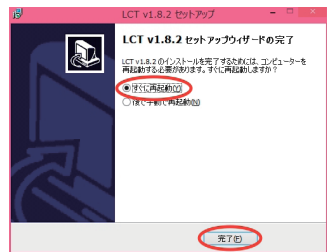
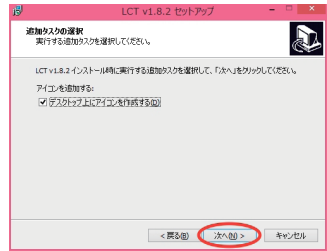
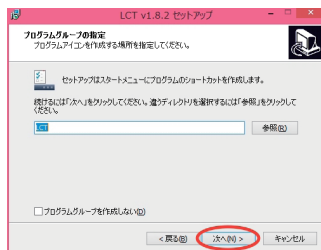
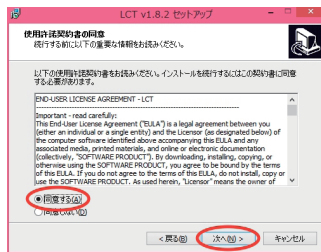
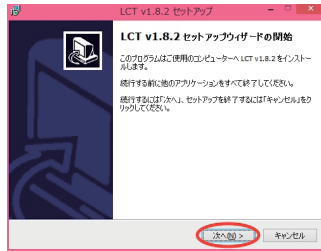
### インストールの手順

#### Windows PC の場合

「LCTvx.x.exe」を起動します。（画像に表示されているソフトウェアのバージョンは、実際の表記と異なる場合があります）

 help	2016/05/31 15:20	ファイル フォルダー
 LCTv1.8.2.exe	2015/10/21 13:21	アプリケーション

手順に沿ってインストールを行います。途中の「インストール先」の指定などは必要に応じて変更してください。（通常は手順の通りで問題ありません）



インストールが完了すると、コンピュータのタスクトレイに以下のいずれかのアイコンが表示されます。

アイコン	状態
	プロジェクターとコンピュータが正常に接続されている状態
	プロジェクターとコンピュータが接続されていない状態

## macOS の場合

1. 「LCT.app」を「アプリケーション」フォルダに移動します。



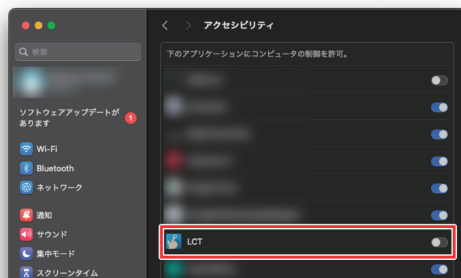
2. 「LCT.app」を起動します。
3. 「システム設定」>「プライバシーとセキュリティ」>「アクセシビリティ」に移動します。

・「IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェア」の初回起動時にダブルクリックして開こうとすると、以下のような「開発元を検証できないため開けません」といったメッセージが表示され開けないことがあります。その場合、LCT.app を右クリックして「開く」を選択して開いてください。(2 回目以降はダブルクリックで開けます)



4. 「LCT」のチェックをオンにします。



・アクセシビリティの中に「LCT」が存在しない場合、+ ボタンを押して「LCT.app」を手動で追加してください。



## 「LCT」のチェックがオンの状態でもタッチができない場合

「LCT」のチェックがオンの状態でもタッチができない場合は、アクセシビリティから一度「LCT」を削除し、再度追加してチェックをオンにしてください。

IR ペン& LCT ユーティリティソフトウェアを起動すると、コンピュータのタスクトレイに以下のいずれかのアイコンが表示されます。

アイコン	状態
	プロジェクターとコンピュータが正常に接続されている状態
	プロジェクターとコンピュータが接続されていない状態

## macOS で IR ペン& LCT ユーティリティソフトウェアを ログイン時に自動起動させる設定手順

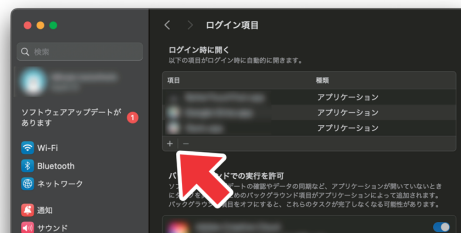
ワイードの IR ペン（電子ペン）によるタッチ機能を使用するには、IR ペン& LCT ユーティリティソフトウェアが起動している状態である必要があります。

コンピュータを再起動する度に、IR ペン& LCT ユーティリティソフトウェアを手動起動させるのが面倒な場合は、ログイン時に自動的に IR ペン& LCT ユーティリティソフトウェアが立ち上がるように設定することをおすすめします。

1. 「システム設定」>「一般」>「ログイン項目」に移動します。



2. 「ログイン時に開く」の項目の「+」ボタンより、「LCT.app」を追加します。



## タッチ位置の校正を自動で行う

IR ペンを使用する場合、初回セットアップ時に必要な作業です。以下の作業は、一度行えばプロジェクター及び投影面の位置関係が変わらない限り再度行う必要はありませんが、タッチ位置がずれたと感じた際にはタッチ位置の校正を再度行ってください。



- ・ プロジェクター側の画面解像度を「1920 × 720」、プロジェクターのアスペクト比を「16:6 (または自動)」にした状態で、タッチ位置の校正を行ってください。

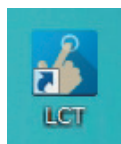
### タッチ位置の校正を行う前に

プロジェクターのタッチ位置の認識センサーは非常に繊細です。これからの各種設定を行う前に以下の点に注意することで、より良い状態のタッチ操作環境を再現することができます。

#### 以下の条件を満たしてください

- ▶ 投影面に掲示物などが無いようにしてください。
- ▶ レンズに汚れがないようにしてください。汚れがある場合は、柔らかい布などで拭き取ってください。
- ▶ 部屋の明かりを消してカーテンを閉めるなど、なるべく周囲を暗くしてください。(太陽光や蛍光灯の光が赤外線センサーに干渉することがあります)
- ▶ フォーカスを調整し、投影映像を鮮明にした状態で行ってください。
- ▶ 設定中はレンズを遮らないようにし、本体に振動を与えないでください。

1. 「IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェア」を起動します。



2. 「タッチエリア設定」から、「自動」を選択します。タッチエリアの検出が自動で実行されます。



3. 「校正」から、「自動」を選択します。(タッチ位置の校正が自動で実行されます。実行中は、プロジェクター本体を動かさず、また、投影面に影ができないように注意してください)



### 自動設定がうまくいかない時は・・・

ユーザーマニュアル「[以下の条件を満たしてください](#)」を参照の上、各条件を満たした状態で再度設定を行ってください。

それでも自動設定が失敗する場合は、ユーザーマニュアル「[タッチ位置の校正を手動で行う](#)」を参照の上、設定を手動で行ってください。

## タッチ位置の校正を手動で行う

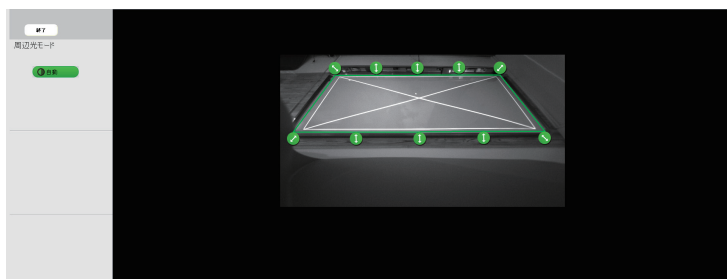
### タッチエリア設定を手動で行う

1. 「タッチエリア設定」から、「手動」を選択します。



カメラが投影映像をキャプチャし、[タッチエリア]ウィンドウがポップアップします。

※キャプチャされた映像は実際のカメラ視野を表しますが、投影映像に対して反転しています。



### タッチエリア境界の微調整

緑色領域の頂点を選択することで、頂点位置の変更ができます。画面を見ながら、緑色領域（タッチエリア境界）と白色フレーム（投影エリア）が重なるように、緑色領域を調整してください。

調整が完了したら、「終了」を選択します。

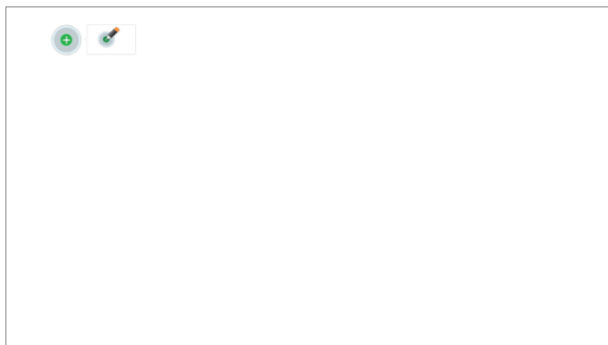


## 校正を手動で行う

2. 「校正」から、「手動」を選択します。



順に表示されるマーカーの中心を、IR ペンでタッチしていきます。



## トラブルシューティングビューア

周囲からの赤外線（IR 光）がタッチ性能に干渉する場合があります。トラブルシューティングビューアは、デバッグ（問題修正）のためにリアルタイム映像を表示します。光の干渉が緑色でマークされます。緑色でマークされた妨害物が映像領域内に表示される場合は、取り除いてください。

**注意：**トラブルシューティングビューアでは IR ペンによるタッチが無効になります。選択して終了してください。

**注意：**投影面周辺に 20mm 以上のフラットなスペースを確保してください。投影面周辺 20mm 未満に黒板枠や粉受けがある場合、IR ペンの校正及び使用に支障をきたす恐れがあります。

